



今年度の抱負

機関誌の増刊

会長 佐藤 やい

複刊第8号

私共にとり与えられたる重要な使命である
と存じます。

一方既に、国内の会員諸姉と密なる
連絡を図るために、年二回の会誌を発
行いたしております。然し、現在の諸
条件より考えますと、これでは、全
員たちの連絡は充分とは申せません。
依つて、種々検討いたしました結果、現在
の年二回の会誌発行を年、四回のパン
フレット様の形式として発行いたし、
この際会員諸姉と一応緊密ならしめる
事について意見が一致いたしましたの
で、従来の方針を変更すべく一月の理
事会に於て諮つた結果、右の通り決定
いたしました。

勿論これは基本的な経済的関係と、
更に会費を唯一の収入源としている本
会運営の現状より観て、先ず、会費収
集増進の一助をも考慮いたし、本年度
より早速、実行に移すこととなりまし
た。この会誌の増刊が少くとも年四回
本部と全会員諸姉との交流的機関とな
り、また同時に、会員各位の忌憚なき
御意見、御希望をもうかがい、名実と
もに日本女医学会としての実力並びに、
財力をも備えたいものと切望いたしま
す。斯くて真に意義あるわが国の有力
なる婦人団体として、内外にその真価
を発揮されますよう切に希う者であり
ます。

本年の初頭に当り、全会員諸姉の御
健康と御奮起をこころから祈念いたし
ます。

会長再選に当り御挨拶

会長 佐藤 やい

私見を申し上げますと、先頃の会長改
選期こそ最も有能なる人材を会長とし
て選出いたし、各々その立場に於て補
佐し、更に会員の増加と内容の充実を
計り、真価を高め、国内的には申す迄
もなく、国際的にも華々しく活躍出来
るようわが国最高の婦人団体として盛
りたてて行くことこそ私共の責任であ
ると感じたのでございます。

然し全会員皆様方の御熱意と御協力
により今日まで大福なく年毎に前進い
たし、更に一応地区的に会員間の確固
たる基盤も出来つつあることは既に御
存じの通りでございます。

また国際的にも本会の実力を高く評
価認識されて参りましたことは日本の
ためにも喜ぶべきことと存じます。

指導的立場にある日本の婦人団体が
民間外交の役割にいろいろ貢献いたす
という事実を私共は耳にいたしており
ますが、日本女医学会としての眞の活躍
も更に今後にあると存じます。

第六回日本女医学会総会

理事 徳永 恵子

大村理事 会員総数三四二一人中委任

状出席者共で八五五人を要するが今

日の総会は委任状八〇二、出席者六
三名で総数の四分の一を越えて成立

新年お目出度うございます。皆様には
御機嫌よく新年をお迎えの事と存じ
ます。

一九六二年も御健康で、公私共に益々
御活躍の一年を過ぎますよう心か
らお祈り申し上げます。

日本女医学会も再発足以来八年目を迎
え、漸く堅実な歩みを続け、国際的に
も、女医の団体として認められるよう
になりました。

申すまでもなくこれは会員諸姉の御
熱意と実力の現れであつて洵に喜びに
堪えません。

来るべき「マニラ」の国際女医学会
会には、奮つて多数の会員が出席され
て、大いに日本の女医のため活躍され
その実力を発揮されますよう切に御期
待いたします。

過日、国際女医学会本部(瑞西国ジュ
ネバ)から、「日本女医学会の副会長に
候補者を推薦されたし。」との要請が

ありました。これは偏に、本会が国際
的にも認められた所以であると信じま
す。果して当選するか否かは別問題と
して、本会の今後の発展のために誠
意深き事と存じます。その重要性を
考え、年末年始の忙しい折にも拘わ
らず、緊急理事会を開催いたし、日夜御
多忙な医療の中に在つて、常に多大な
る御協力を頂く小野連絡書記より、詳
細なる御説明がありました。当日は出
席各氏が長時間に亘つて熱心に討議い
たしたわけでありました。その結果、理
事会の総意として、一応今回は、私が
日本女医学会から立候補することに決定
いたしました。

日本女医学会は、御承知の通り既に、
三、五〇〇余名の会員を有し、国際女
医学会として参加もしております。

今後必要に応じて、有能なる人材を
本会を代表として送り出すためには、
組織的地盤を固めて置く事こそ、今日

(三七・一・三〇記)

会の特殊性を充分に發揮して時代に
あつた女医会としていきたい。
庶務報告(三神理事)別表。
会計報告(中西理事)別表。質疑特
なし。

議 事

第一議題 会長選挙

竜氏 評議員会(九月十八日)の予選
で四十五人の出席者の中で過半数の
点が佐藤先生であつた。佐藤先生は
立派で信頼にたる方である。

吉岡、竜両氏は選挙を辞退される。

ここで再度選挙を行つても同じ結
果と思う。選挙を行う必要なしとの
川那部氏其の他の発言あり。

森田氏 改めて選挙の必要もないと思
うがするなら挙手、拍手の方法で決
めたら如何。

大村氏 選挙した方がいいと思う人の
起立を求めたが起立者なし、選挙は
やめて前会長留任に決定す。

佐藤留任会長挨拶要旨
会の細則により時間がかかつても選
挙の方法をとるべきであると思う。

これからの日本女医会は国際問題も
からんで重大であるから、自分とし
ては辞退をしたいが、会員の皆様の
総意ならば努力したいと思う。今後
益々会員諸姉の御協力、御援助を切
望する。

第二議題 国際女医会の件

小野氏 マニラの問題、デルムンド会
長より、是非出席せよと。米国は三
〇一四〇人出席の由、日本もそれ位
出席されたし。

外貨の都合により滞在費はフィリッ
ピンで持つ。ホテルは会場から徒歩
出来る距離、着物の単衣を二―三枚
持参のこと。
議題 臨床医と親の教育

この問題については理事会にかけて
研究会を行う予定であるから参加し
てほしい。

総会案内状に同封した旅行案は単に
参考のものであり三月締切後具体案
をたてるつもりである。

米国女医会長リード女史よりの書簡
で各国の女医が各国で本を手に入れ
ることがむづかしいから、お互いに
不要の本を交換することを提案して
きた。外国の本でほしいものを早く
申込むこと。

又外客の接待のために協力者があれ
ば(暇があつて、語学の出来る人)
申込んでほしい。

佐藤氏 定方、小野両氏がよくやつて
下さるが、何人でも申出てほしい。

川那部氏 パーデン会(国際会議に参
加した会員十九名)で何か役に立つ
ことをしたいものと考えている。

花岡氏 小野氏に外客接待について迷
惑をかけているのではないか。

佐藤氏 小野氏には車代、通信費等女
医会から払つてはいるが殆んど奉仕
的である。

今後外客接待をお願いする方にも会
費を集めて迷惑のかからぬようにし
たい。

川那部氏 パーデン会から少し手伝
つてはいるが足りない。

西田氏 ポリオワクチンのことにつき
外国女医の勉強ぶりに感心した。国
際女医会を通じて勉強したい。

松井氏 会員をふやすように考えてい
かなければならないのではないか。
又従来振替送金するようになってい
るが、会費を集めるのに支部長に会
費一覧表を送りまとめて送るよう
にしては?

佐藤氏 振替をやめて支部単位で集め
ることは賛成。

福原氏 未納分は支部長に通知してお
くが、振替は各自に入れるようにし
なければよく納まらないのではない
か。入会後の会費を集めることを考
える。

森田氏 支部にかえてつて会員をふやす
ようにしたい。将来いづれ日本で国
際女医会を開く時のために、又書記
長のためにも予算を確保しておく必
要ありと思う。

小野氏 手当は不要である。平和のた
め、人類のため奉仕する。日本女医
会に入つていて得なことがあるとい
う会にしたい。

外国に行くためにその場かぎりの会
費納入でないこと。
福田氏 日本女医史の件。

女医史と共に婦人の文化史を書き入
れるために原稿がおくれた。本日は
場に原稿が出来上つたとの電報が入
つた。これから印刷すると二ヶ月後
に本になると思う。出来るだけ多く
出るように購買法をたのむ。

議事終了後観光バス(武田製菓より

サービス)で一行六〇余名は尾上菊
五郎劇団御劇会全場歌舞座へ向う。
大村氏
十一月十三日見学の日程

東京女子医科大学心臓外科手術見学
をする人は午前九時半集合する。十
時より二班にわかれて手術見学、手
術の映画をみる。

心臓手術見学をおえて観光バスで聖
路加病院見学に向う。
大村理事 閉会の辞

総会終了 三時四七分
庶務報告(三十五年度総会以後)

常任理事会六回、理事会四回、評議
員会一回、其の他編集会を行う。

議事内容 (一)国際女医会の件 (一)女医
史の件 (一)会費納入の件 (一)役員改
選 (一)総会打合せ其の他
評議員会を九月十八日行う。会長予
選をなし、佐藤、吉岡、竜三氏を候
補にあげられたが佐藤氏絶対多数の
点を得られた。

其の他の事項
病院スト(昭和三十五年)の請願書
を厚生省に提出する。兵庫県支部他
十一支部に浸水見舞電報を打つ。会
員に特にひどい被害者なし。

榎井繁子副会長御逝去(三十六年七
月)

副会長に定方貞代氏を推薦。
会員移動七三件、死亡者九名(川瀬
イシ、小池満寿杉、野沢栄久子、菊
池とみ子、水野貞重、仁志田敏子、
宮武品子、鳥居和代)

黙 禱

会誌は一月、六月二回発送、名簿十
二月発送準備中
外国女医来日(フィリッピン、英國
南米)来日
以上

会計報告(三十五年度)三十五年四月

より三十六年三月まで。

収入之部	一〇三四、七六〇
会費	一〇八、九七九
雑収入	一一四三、七三九
合計	二二八六、四七八
支出之部	一七八、二〇五
通信費	一七八、二〇五
消耗品費	四、三四二
印刷費	二五一、九五五
備品費	一一、〇五〇
雑費	二六三、〇六七
暖房費	一一、〇〇〇
出張費	三四、八六〇
立替金	二〇〇、〇〇〇
(日本女医史原稿料)	
国際女医会費	一一二、三四〇
(三十四・三十五年度分)	
給料	二五二、〇〇〇
給料	二五二、〇〇〇
支出合計	一三二九、八一九
差引不足高	一八六、〇八〇
前年度繰越高	二六八、九〇一
翌年度繰越高	八二、八二一
日本女医史会計報告(昭和三十七年一 月現在)	
収入之部	一三三、〇〇〇
寄附金	一三三、〇〇〇
内訳	
一〇〇、〇〇〇	故吉岡会長
一〇、〇〇〇	大貫セツ氏

一、〇〇〇 児玉琴枝氏	支出之部
一〇、〇〇〇 大阪支部	原稿料 二四〇、〇〇〇
一、〇〇〇 松山みどり氏	印刷費(申込書他)一〇、五五〇
申入金 四〇二、〇〇〇	通信費 一、四八八
入金合計 五三五、〇〇〇	支出合計 二五二、〇三八
	差引残高 二八二、九六二

東京女子医科大学心臓外科

聖路加国際病院見学に参加して

砂ほこりが気になる晴天つづきの日である。総会が終わった翌十三日に、東京女子医科大学心臓外科及び聖路加国際病院を見学した。

心臓手術の栄介ちゃん、恵子ちゃんの報道で世間の関心が集中していた直後だっただけに会員の好奇心を深めた様子であった。

榊原教授執刀の手術見学と映画との二班に分かれた。落成後まだ間もない新講堂では非常に理解しやすくカラーフィルム(心臓手術の映画)の説明がなされた。

見学終了後、軽食をすませ、一行六〇名を乗せた観光バスは老いも若きも小学生に返ったものさながらの雑談ぶり、時折きこえるガイドさんの声に耳を傾け、定刻一時半に聖路加病院の一般訪問者専用玄関に到着した。病院の中に一歩足を踏み入れた瞬間、何か身のひきしまるような、緊張感を覚えた。

後日聖路加病院に四十余年勤務して



→心臓手術室を二階の見学室から熱心に見下ろす後姿!!

おられる日本女医会副会長長定方先生のお話であるが、病院勤務者はすべて奉仕の一字に徹しており、例えば掃除夫は休暇の日でも、まだ夜の明けぬ時間に出勤して自分の任務を果すとの一言——そうした精神が働手の心に流れて活動している様子が、言わず、語らず、全病院の清潔、整頓、真情等々の雰囲気の中にしみじみと感じとられた。



→目の下に展開する心臓手術室



→聖ルカ病院へ向う観光バスの中



→聖ルカ病院々長補佐の平賀先生の流暢な講話にジーンときき入る見学生!

病院長補佐平賀先生の御講話を伺い、病院の設備、附属短大をも一巡し、三時間余の見学をすませ、エスカレーターのある病院一隅にたどりついた頃は晩秋の陽もすっかり西に傾き、築地の街角にも、ネオンの灯がチラホラ見えはじめるころとなっていた。

北海道、新潟、島根等の遠客は予定のホテルへと、また来年の総会での再会を約し解散したのでした。

昨年は第五回総会を大阪で開催いたし、奈良、京都、神戸との観光を兼ね盛大な集會に恵まれ、本年は歌舞伎観賞に、又同じ医業にたづさわる会員の要求をみたしてくれた見学等、年毎に内容も充実されていきます事をよろこび、見学の記とします。

× ×

第五回(昭和三十六年度)

日本女医会石川県支部総会報告

日本女医会
石川県支部 評議員

米 林 梅 子

- 不快指数を連日の様に意識して居た今夏の名残りを感じさせられる、九月十日(日)午後二時から金沢市片町味苑で総会を開催致しました。
- 一、開会の辞 荒井梅子支部長
- 二、本部よりの御通知伝達 荒井梅子支部長
- 三、昭和三十五年度会計報告 早稲田かめの副支部長
- 四、講演「最近の世界の動き」 北国新聞社主筆 上山南洋先生
- 五、閉会の辞 早稲田かめの本部よりの連絡事項
- 理事會評議員會議事内容(九月十七日)
- (1)、国際女医会の件
- 第九回国際女医会総会がマニラで一九六二・一二・三一〜一九六三・一七開かれる事になり、新聞、費用等協議しその結果を十一月の日本女医会総会通知の折に知らせ、参加希いました。
- 尚、出席者の出足が遅く開會時間が予定よりおくれ、お迎えを差上げる筈の講師が御自身でお見えになったのを機に會を始め講演を先にといた調子で今年は少々勝手がちがった感じがございました。
- (2)、會長選舉の件 望者を募る。
- (3)、日本女医史、近く出版の予定 十一月の第六回日本女医会総会に於て決定。
- (4)、日本女医会員名簿 今年末までに贈呈の予定。
- (5)、七月二十六日日本女医会副会長 福井繁子先生御逝去(八十六才)になり、御葬儀に會長佐藤やい先生御参列、弔辭を差上げられ日本女医会としてお花を捧げられた事を伺い、当支部に於ても心からなる黙禱を行いました。

女医は医学方面の知識さえ吸収すればいいという考えもあるかとは思いますが女医とて医師であると同時に社会人であり、国民の一人であり世界人類の一員である以上、世界の動きに無関心ではありえないわけであり、新聞ラジオ、テレビ等によって熟知しているつもりであっても、大局を掴む事は割合むずかしい場合があるので、全然中立的な立場のしかも専門家の意見を聞くのも今後の自分達の人間としての巾を拡げる一つのよすがともなるうかとの意見の集結が、去る七月二十三日の支部役員会で決定された。当日の講演となったのでございます。

又支部評議員米林梅子病氣入院中、五月二十八日石川県支部を代表されての荒井支部長、早稲田副支部長のお見舞を忝うし、再起可能の身となった現在席上お二方並びに会員諸姉に深い感謝の意を表しました。

つづいて例によって懇親会に移り和やかに時が過ぎて行きました。今年は新年会の他に観桜を兼ねて春の集いが持たれましたが、更に紅葉の濃くなった頃の再会を約して散会致しました。

当日出席者(敬称略)
荒井梅子、早稲田かめ、一林なを、大音師つる、堀岡芳枝、織田秀子、米林梅子、広瀬 斎、吉池朝子、宮村明子、梅田千弘、横井美佐、谷口恭子。
以上十三名でございます。
副支部長高橋八百子姉八月一日退会
副支部長大和(旧種村) 百代姉副支部長辞任。

国際女医学会総会の議題をみて

理事 上田 田 葉

日本女医学会が国際女医学会に入会したのもつい先年のことでしたのに、もう本年はその副会長を日本女医学会から選ばれようとして居り、その発展を心から喜んで居ります。

諸外国に比し、女医の数に於いても実力においても決して居らず、むしろ学問的には勝つて居ると信じて居ります。実際短い学会の間でも特にドイツ人等は日本を高く評価し、ディスカッションの報告に、日本人が居らなければがしてまでその意見を聞いて取り入れて居るようでした。未開である東洋では当然でしょうが、世界でも指導的立場にあつてよいのではないかと思ひます。その日本女医学会が大いに活躍出来るよう一層協力しなければと一九六二年の新年に當つて痛感して居ります。

さてその総会のテーマが「臨床医と親の教育」となつて居ります。長年医局でのんびりとして居りました時には、余り考えた事ありませんでしたが、数年前より東京でも最も衛生状態のよくない、教育程度の低い場所に開業して日夜多数の患者に接して居りますと、家庭医のあり方を考えさせられます。実際私のような所に住んで居りますと、殆んどの人が、男は勿論、女も健康とか病氣に対しては実に無関心

で、命より金の方が大切と言いたいところもある位で、生活のためにはやむを得ないとは言つてもなげかわしいことです。医者は夫々の家庭の中に入つて健康に関する事はばかりでなく、あらゆることの相談をうけて、又それを知らなければ本當の治療は出来ないと思つて居ります。今のような健康保険の状態で夢でしようけれども、私はいつも余り多くのクランケをみず適当な人数に制限して、その人、その家庭を全部知り指導し治療してあげたらと考へて居ります。全然医学的知識のないもの、又関心は持つていても無智で全然ピントのずれているもの、科学的医学より民間療法とか信仰によつて疾病を治療する、そんな人の多い中に居りますと、毎日毎日がいらいらと腹立たしいことばかりです。医者の方、学校の教師の指導、PTAを通じての親の教育等は可能なことで、是非是非非実行してゆきたいことです。自分達の生活さえ保証出来るなら、自分も正しい判断が下せるよう勉強し、毎日無料健康相談をうけ、治療し、親を指導してゆけるようなことをしてみたいと、これはここに開業した当時から時々考へていたことでしたが、このような話題の出た時又改めて考えさせられて居ります。

偶感

理事 野呂 幸 枝

古 狸
女は齢四十を過ぎるとウルサガラレの年令になる。殊に同じ職場に二十年も住み着くと益々である。ベテランと呼ばれると聞えがよいが古狸といわれると情け無い。

古狸の私は日本女医学会の役員会に出席するのが好きである。何故なら、私の母の様な先生方が意気盛んに論じ、しかも円熟した話術で柔かなムードが流れる中で、新参者の私は発言もせず将来私は、あんな風に老いるのだからか、など考えながら聞いているのは楽しいから。

東京から夜行車で帰る頃にはまるで新進気鋭の若者になつた様な自分を持ち帰るのは嬉しいものである。

子 供

我々は一体何の為に幼い子供を愛するのか、その理由の一半は少くとも幼い子供にだけは欺かれる心配のない為

諸外国では、どのようになつて居るか、総会でいろいろ話も出ることで、面白いことも、参考になることもありましようが、何しろ事情はそれぞれの国によつて違つて来るものですから、充分にデーターを集めておき、ディスカッションにそなへたいものです。ヨーロッパの方々はすべてに違つた東洋に非常に興味を持ちその代表の日本に

対しあらゆることに質問して来ますから。 流感で忙しい中を、ペンを取りました。何にか思いつくままとりともないことを書きましたが、いつもいつも考へていた事が丁度総会のテーマになつたもので、貴重な紙面を拝借してしまいました。

である。と芥川の言葉がある。子供の病状が混頓として医者の目が欺かれることはあるが、医者が病氣の本能を探求出来ない為であつて、子供自身が医者を欺くのではなく、子供の意志や気分や体裁で病状を混乱させる訳でもないであらう。殊に乳幼児ではそうである。だから私は小児科を専攻したのは辛いであつたと思つている。

小児科医の心構え
小児科医は愛情と忍耐と決断力を持たねばならないと云われている。深い愛情をもつて粘り強く、事を決するにはタイミングを失わず行つて、小児科医のみならず、総ての仕事に処す心構えであらう。併し何の不平等も要求も出さない未熟児を扱う場合、この精神無くして完全な治療、養育は出来ないとしみじみ思ふ。
医者にみせる
「二、三の開業医にみせたのですが、

どうも思う様に参りませんので詳しく診療して下さい」と訴えて来る母親氏がある。この人は「今朝美容院でパーマをかけさせました」。「宅の子供のおな言葉である。」

故福井副会長を偲びて

藤 川 富 慈 子

永遠の光輝添へたる天の川

陰曆六月十四日の田舎の盆で帰省、一泊、その足にて大阪の所要を済ませ帰京、一日置いて新聞にて福井先生の御逝去を知り、即日廿九日夜行にて大阪へ発ち、翌三十日の御葬儀に参列して、今は御昇天遊ばされました先生の御霊に玉串を捧げさしていただきました。ただただ夢の如き気持ちにて御生前の諸々の先生の御心尽しに對し何も御答へ出来ないそのままに呆然とするばかりでした。

「百才以上生きますよ」と御元気で若人よりも御歩びの確かさ早さを六年前に拝見していただきましたに、先生には何時でも御会い出来るものとの過信がこの悲しさの元となりました。顧みますれば全国日本女医会発会式に東京での御拝顔が最後でした。私の二十年間の大阪在住中は公私親しく御指導賜わり、先生の遠大なる御理想を押し、心に鞭うつこと幾度ありました事でしょう。戦後卒先して女医を一丸とされ、私等の如き者さへも、時の知

勉強は田中先生に見せていますのよ」と云う様に話すのだろうか。

「医者に診せる。」「どうも耳ざわりな言葉である。」

事、市長、警視總監、大学総長、各界名士、米軍々医主脳に歴訪の機会を御与へ下さり、米軍病院の見学、軍医の御自宅への御招待の橋渡し、又英会話を取り入れ、先生御宅、至誠会病院、医師会館、又は会員の自宅等にてなごやかな内に一堂に会したものでした。今尚大阪では大原教授を先頭に恒例の英会話の集いを御盛んに継続してられる事を伺いました。

万国女医会長リード女史来朝や、米軍将校のパーテー等には会長として日本女医の紹介の勞を御取り下さったものでした。女医の草分けの方々の内では御地味な様に拝されましたが、まことに情愛に満ち満ちたお方でありました。先生の御宅に伺って御診察を拜していただきました。感ぜさせられました。幾人かの有為の青年女子を御援助遊ばしましたとか御陰徳の御高くあらせられた事もさこそむべなるかなと領けるものがありました。昭和十六年に大阪帝大で私が学位を

受けました時も第一番に御祝いをいただき、是れとも女医会で披露をしてやるからと人も知られる御達筆で再三御誘いを受けたが、私の父と学舎が同じで先生の御偉さを伺っていましたのですが、何となく御恥かしく御辞退申し上げた次第でしたが、斯の様な御やさしい御方でしたらもつと早く種々と御導きいただければ良かったと思つた事でした。

戦後焼失された大阪中心地の広大な御屋敷には百種の山菊が咲き乱れ、その中道を通り先生の御玄関に這入りますと、ずらり若々しい腹物が並び、なかなか順番が待ち遠しかったのですが、寸暇を私等のために割いて下さり何とほのぼのとも御話し出来、又御点下さる緑茶と羊羹にはとろりとさせられました。

先生の喜寿には私ながらに御祝いをさせていただくつもりで拙句
紅梅の匂ひ国手の喜寿迎う
を用意しながら何かに取りまぎれ果せなかつた事を残念に思っています。この頃に御口にせられていた鉄筋の御構築が福井ビルとなつて見事に実現せられていたのにはさすがに筋金のはいつた先生だけであるとこれ又御論しを受けました。

先生は真剣に女、とくに女医の地位の高揚を願っておられました。先生の理想としていられた事が現今では御意に御添い出来る方が続々と生立ち、海外にまで発展し、力強く人類のために役立っております。天

上からきつとほほえみを以て我々の活動を見守つて下さっていることでしょう。

偉大なる道を開いて下さつた先生に東京の町の一角から、ささやか乍ら心

「マニラの総会を控えて思うこと」

国内連絡書記

小 野 ハ ル ミ

いよいよマニラで行われる国際女医会総会も本年の十二月に迫つてまいりました。

フィリピン女医会々長のデルムンD先生から度々手紙がまいります。「日本からの皆様を歓迎いたします。どうか大勢いらつしやつて下さい。他国からはもうすでに百七五名申込みがあります」と言ってきました。私共の申込締切は三月末日ですのでその由連絡しておきました。日本に對し「私共アジアの女医は団結して、仲良くしなくてはいけませんね」と先日も言っておられました。フィリピンでは祖国を愛する精神がとても強い様に感じられます。

現在の日本、特に若い方々にはあまりそうしたものが見うけられないのではないのでしょうか。そこで会のあり方について日本と外国とを比べてみたいと思ひます。私の如き、若くて地位もなく経験も浅い者が偉そうに何を言うかとお叱りを受けるように思うのですがおゆるし

よりの御冥福を祈らせていただいております。

慈母菩薩ころにしみて蟬しぐれ
以上

その人が最善を尽せば、いくら下手でも聴衆者にはそれがわかりますでしよう。

その努力をかってあげればよいのではないでしようか。

会員も入会した限りは一員として自分の出来る限りに於いて協力すべきだと考えます。

外国では自分の出来る事なら率先して出る雰意気が見られます。又幹事側としてもこの人ならと思う人に依頼します。日本では私より上手な方が大勢いるのに名乗り出でてはしゃばりだと思われると考えるのではないでしようか。何も特に目的もないただのお集まりならいざしらず、有能な方々の集まりでは、時間が無駄な様な気が致します。

私が最近一番感じましたのは、東京のある外人の会で講演の後、各々が一品ずつ持ち寄り一諸に会食をする会がありました。奥様が自分のお料理の腕前とその家庭の経済力とをてらし合せて申し出た様でしたが、例えばだんづつ料理でも、心のこもった品ばかり、時間のない方、又は料理の下手な人は果物をとった具合に持ちよって、各々家族連れで集まり、とても楽しい思いをしました。その場合「決してみえを張ったりすることなくかえてこの方が経済的で、しかも面白いのよ」といっていました。

ような気がいたします。たとえ、特に上等なものでもなくとも、他の方と協力したり、又分かちあつたりしましたらお互に虚栄を張つたり謙遜したりしているより、楽しいのではないでしようか。日本の良い風習を取つておき、又必要もないのは捨ててはいけないものでしようか。

さてマニラの会の前後には他国の会員が日本の女医会員に会いたいと米国からも英国からももう言つて参りました。その際は皆様にお知らせ致しますから、英語が下手ですとおしやらずに、ぜひぜひ御出席下さいませ様お願い致します。

住所移動その他

- 清水 五百子 東京都武蔵野市吉祥寺一五六六
- 潮 縁 葛飾区柴又町二ノ二五八
- 鈴木 美絵 大田区新井宿五ノ五二二
- 田中 洋子 目黒区下目黒三ノ四七八
- 岡田 喜代子 練馬区大泉学園町二二〇三
- 向野 梅子 葛飾区下千葉町五三〇
- 西村 トミ子 中野区川添町二七
- 花見 晴子 豊島区池袋東三ノ八
- 平 沢 千恵子 荒川区荒川町一ノ五八
- 内 野 薫子 江東区大島町六ノ七二〇
- 木村 良子 秋田市土崎港国鉄土崎工場宿舎一六号ノ二
- 八 木 貞子 福井市乾徳町一ノ五一
- 内 藤 悦子 岡山県倉敷市水島栄町四ノ五九
- 横 川 つる子 岡山県邑久郡邑久町虫明邑久光明園官舎
- 本 間 明子 北海道函館市外五稜郭駅前
- 野 川 福江 大阪府守口市南寺方北通二ノ二
- 田 那 村 敬子 千葉市新宿町二ノ四九
- 天 田 昭子 福島市春日町六ノ三
- 生 駒 田 鶴子 北海道亀田郡亀田村字桔梗一九一
- 丁 野 佳子 新潟市青山 聖園病院
- 梶 原 寿栄子 千葉県茂原市茂原六四五
- 滝 口 武子 兵庫県宝塚市千種ヶ丘三三三ノ五二
- 久 保 美恵子 岩手県花巻市吹張町一〇八

○会費未納の方には請求書を同封しました、会費をお納め下さい。

○三十六年暮名簿を寄贈しました。送料として百円御送金下さるようお願いしてありましたが未納の方は至急お願いいたします。

○国際女医会本部より、バーディン・バーディン会議の報告書がとどいております。

御希望の方は切手二〇円同封の上日本女医会本部に御申出下さい。

編集後記その他

本来ならば一月に発行するべき本誌がこんなにおそくなつたことをおわびします。

これにはいろいろの理由があるので。日本女医会も会費がやすく、資金面で大いに苦労いたしますので、これは何とかして会費の納入率をよくして貰いたい、それには度々の督促をしなければならぬ。年二回発行の会誌ではそれが出来ないといつて会費の督促のみに郵税を費やすことは経済上許さない。それ故年四回の発行とし一回の頁数を少なくしてはという事になつて、今回からは御覧の通りのものにして年四回発行することにしました。会員の皆様どうぞこの編集者の苦心をお察し下さつて全員会費の納入をお忘れなくお願いします。

日本女医会の仕事も国際的になつて来ましたがこれからは世界中で一番多数の女医を持つている我が国、即ち日本女医会の働き場所となるのではな

いでしようか。記事でも申し上げました通り、国際女医会も次回には我が日本女医会から副会長候補を出すことにもなりました。一同が結束して我が国女医の本領を発揮したいものです。

最後に日本女医史のことでございますが、ほんとうに発行が後れて皆様方に申わけないことです。もう間もなく発行になります。目下原稿は了つて印刷に廻つています。全く皆様の心からなる御協力によりまして予約も何とか目的数に達しました。どうぞ御期待下さい。皆様が「これは面白い本だ、我が国になくてはならぬものだ」と思つて下さるようなものが出来る心算です。私は全く大きいえば寝食を忘れて、この女医史をつくるということをやアツピールいたしました。どうやら近日日になつてくる日がいよいよです。どうぞこの上とも一冊も多々お買求めを願ひ、広く世の中にひろめることを御考へ下さいませ。それだけ女医会の会計も豊かになり、女医会の仕事を完成したことに成ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(三七・二 福田 幹)

昭和三十七年三月二十日印刷
 昭和三十七年三月二十五日発行
 編集人 福田 幹
 発行人 日本女医会
 発行所 東京都新宿区市ヶ谷河用町19
 日本女医会
 印刷所 東京都港区麻布田島町63
 福田印刷株式会社